第３次さつま町教育振興基本計画（案）に係るパブリックコメントの結果

１　実施期間　　令和６年12月25日（水）～令和７年１月29日（水）

２　受付人数　　１人（７件）
※　複数の御意見を提出している場合があるため、受付人数と意見数は一致しません。
※　御意見については、受付順に掲載しています。

３　意見の内容及び町の考え方

No	御意見	御意見に対する町の考え
1	子どもの教育環境で大きな役割を果たす、学校教員の働きやすさ・負担軽減を盛り込んで欲しいです。	P59 ５「安全で安心して学べる学校施設及び環境整備」、P63 ８「教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進」の中での取組や対応が教職員の働きやすさに繋がると考えています。 ・校務支援システム、出退勤管理の充実 ・集合研修からオンライン研修への転換等
2	部活動・施設維管理・行事など外部委託できるところは進める。	・体育館やプールなど社会体育施設の維持管理は、シルバー人材センターに委託しています。 ・スポーツ行事は、外郭団体であるスポーツ協会主催の大会です。 ・部活動に関しては、生徒のニーズ、教職員の働き方改革など、様々な視点からあらゆる選択肢を検討していきます。また、部活動地域移行準備委員会で検討してまいります。
3	学校だけでなく町内での自習室の充実を盛り込んで欲しいです。（図書館の自習環境整備・拠点増・wifi・開館時間拡大など）	・現在、屋地楽習館図書室及び鶴田中央公民館図書室、こども図書館内に一定のスペースを設けております。また、屋地楽習館では、部屋の空き状況により大会議室も開放しているところです。 ・ご意見の「町内での自習室の充実」については、その目的や必要性、ニーズの把握など、幅広い視点で検討していくことが必要であると考えます。 ・図書室の関係につきましては、P70の６.図書事業の充実「図書室の機能充実と利用促進に向けた在り方」において、現状を踏まえて検討いたします。
4	鹿児島県・全国とのさつま町の学力調査結果の比較をもっと分析・具体的対策・目標数値が欲しいです。	・各種学力調査における本町の結果については、鹿児島県・全国との比較、分析を踏まえた具体的対策について、その都度広く周知しています。当該学年の児童・生徒の実態を踏まえた改善を図るため、教育振興基本計画に数値目標は設定していないところです。
5	さつま町内の過去の学校統廃合が、子ども・地域・町にとって適切だったか、検証も必要と考えます。	P59 ３「さつま町学校教育の在り方について検討」の中で協議してまいります。 ・学校の在り方検討委員会にて、今後、実証及び改善を図ります。
6	ICTを活用し、不登校生徒が自宅学習を進められるよう環境を整えていただきたいです。	P59 ５「安全で安心して学べる学校施設及び環境整備」の中で取り組むよう計画しています。 ・オンラインによる学習の充実、及びICT支援員によるサポートを実施してまいります。
7	薩摩中央高校だけでなく、他地域の高校に進学する子どもたちへの支援も盛り込んでいただきたいです。	・本町唯一の高校である薩摩中央高校への支援につきましては、少子化等の理由により定員割れの状況が続く中、もしも今後の学校統廃合により町から高校が無くなると、若い世代の町外流出が加速する懸念があり、町の根幹を揺るがす事態となりかねないことから、町と地域、学校が一体となり特色ある学校づくりを目指しているところです。学校の魅力向上を図ることで、地元の高校に通う生徒が増えれば、保護者の経済負担の軽減が図られること、また、やがては卒業生の町内就職など、地域に根差した人材育成にも繋がることが期待されることから、薩摩中央高校への様々な支援を行っているところです。 ・一方、町外の高校に通学する生徒、寮生等への支援につきましては、町としてはこれまで、子育て支援の一環として医療費の全額町単独助成など、保護者の負担軽減を段階的に拡充している状況であり、今後も限られた財源の中、必要とされる子育て支援政策について、更なる充実を図る必要があると考えておりますが、国においては高校授業料無償化の議論も進められていることなどを鑑み、これらの動向を見極めながら今後の対策を検討して参りたいと考えております。